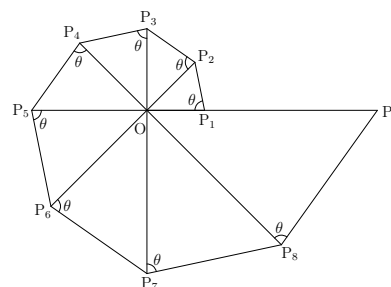


平成 17 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

医・工・教育文化・農学部 平成 17 年 2 月 25 日

- 医・工学部は, [1] ~ [4] 必答, [7] ~ [9] から 1 題選択. 数 II・III・B(120 分)
- 教育文化 (中学 [理系], 生活文化 [生活環境コース]) 学部は, [5], [6] 必答, [7] ~ [9] から 1 題選択. 数 II・B (90 分)
- 教育文化 (初等教育コース, 中学 [文系], 障害児コース) 学部・農 (食料生産科学・生物環境科学・地域農業システム・獣医) 学部は, [10], [11] 必答, [12] ~ [14] から 1 題選択. 数 II・A (90 分)

- [1] 右の図のように 8 つの三角形 OP_nP_{n+1} ($n = 1, 2, 3, \dots, 8$) がある. ただし, $OP_1 = 1$ であり各 n について $\angle OP_nP_{n+1} = \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$), $\angle P_nOP_{n+1} = \frac{\pi}{4}$ とする. このとき, 次の各問に答えよ.



- 辺 OP_2 の長さを θ を用いて表せ.
 - 辺 OP_9 の長さを θ を用いて表せ.
 - 辺 OP_9 の長さが $\frac{81}{16}$ であるとき, $\tan \theta$ の値を求めよ.
- 2 つの円 $C_1: x^2 + y^2 = 4$, $C_2: (x - 4)^2 + y^2 = 1$ の両方に接する直線は全部で 4 本ある. この 4 本の直線の方程式を求めよ.
- n を自然数とする. 曲線 $y = 2 + \sin x$ ($0 \leq x \leq (n + \frac{1}{3})\pi$), 直線 $x = (n + \frac{1}{3})\pi$, x 軸および y 軸で囲まれる部分を D_n とおくととき, 次の各問に答えよ.

 - D_n の面積 S_n を求めよ.
 - D_n を x 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V_n を求めよ.
 - 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{V_n}{S_n}$ を求めよ.
- すべての実数 x について $f(x) = \int_0^1 e^{|t-x|} dt$ とおくととき, 次の各問に答えよ.

 - $f(x)$ を求めよ.
 - $f(x)$ の $0 \leq x \leq 1$ における最小値を求めよ.

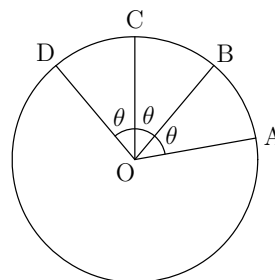
5 次の問に答えよ．

- (1) $\alpha < \beta$ のとき，次の等式 $\int_{\alpha}^{\beta} (\beta - x)(x - \alpha) dx = \frac{1}{6}(\beta - \alpha)^3$ が成り立つことを示せ．
- (2) $-2 \leq a \leq 2$ のとき，曲線 $y = (3x - a^3)(x - a + 1)$ と x 軸で囲まれる部分の面積 $S(a)$ の最小値を求めよ．

6 直線 $l: y = x + 1$ と曲線 $C: y = 2x^2 - 4x + 1$ との交点を P, Q とするとき，次の各問に答えよ．ただし， P の x 座標は Q の x 座標より小さいものとする．

- (1) 直線 l に平行で曲線 C に接する直線を m とするとき，点 P と直線 m との距離を求めよ．
- (2) 曲線 C と (1) における直線 m との接点を R とする．このとき， $\triangle PQR$ の面積を求めよ．
- (3) 点 (x, y) が直線 l と曲線 C で囲まれる領域にあるとき， $x + y$ の最小値を求めよ．ただし，領域は境界を含むものとする．

7 右図のように，中心 O ，半径 1 の円周上に相異なる 4 つの点 A, B, C, D を $\angle AOB = \angle BOC = \angle COD = \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) となるようにとる．ベクトル $\overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$ をそれぞれ \vec{b}, \vec{c} とするとき，次の各問に答えよ．



- (1) ベクトル \overrightarrow{OD} を \vec{b}, \vec{c}, θ を用いて表せ．
- (2) 線分 AC と線分 BD の交点を P とするとき，ベクトル \overrightarrow{OP} を \vec{b}, \vec{c}, θ を用いて表せ．

8 複素数平面上に原点を中心とし半径 1 の円周 C 上の点 $P(z)$ (z の偏角を θ とする) をとる．点 P を点 $A(1 + i)$ を中心として，角 α だけ回転させた点を $Q(w)$ とする．このとき，次の各問に答えよ．

- (1) 点 P が C 上を動くとき，点 Q はある点 $B(a + bi)$ を中心とする円周上を動くことを示し，その半径を求めよ．ただし， a, b は実数とする．
- (2) (1) において， $b = 1$ のとき， a の値を求めよ．

9 出る目の確率が次のようなさいころがひとつある．

- ・ 1, 3 の目が出る確率はそれぞれ $\frac{1}{12}$
- ・ 5 の目が出る確率は $\frac{1}{3}$
- ・ 2, 4, 6 の目が出る確率はそれぞれ $\frac{1}{6}$

そこで、さいころを 1 回ふり、出た目を A とし、 A を 3 で割った余りを X とする．次にもう 1 回さいころをふり、出た目を B とし、 $A + B$ を 3 で割った余りを Y とする．このとき、次の各問に答えよ．

- (1) 事象 $X = Y = 0$ が起こる確率を求めよ．
- (2) 事象 $X + Y = 3$ が起こる確率を求めよ．
- (3) 事象 $X + Y = 3$ が起こったという条件のもとでの、 $X = 1, Y = 2$ である条件つき確率を求めよ．

10 $0^\circ \leq \alpha, \beta < 360^\circ$ とする．このとき、次の 2 つの等式

$$\sin \alpha = \cos \beta, \quad \cos \alpha = \sin \beta$$

が同時に成り立つための必要十分条件を α と β の関係式で表せ．

11 直線 $l: y = x + 1$ と曲線 $C: y = 2x^2 - 4x + 1$ との交点を P, Q とするとき、次の各問に答えよ．ただし、 P の x 座標は Q の x 座標より小さいものとする．

- (1) 直線 l と曲線 C で囲まれる部分の面積を求めよ．
- (2) 直線 l に平行で曲線 C に接する直線を m とするとき、点 P と直線 m との距離を求めよ．
- (3) 曲線 C と (2) における直線 m との接点を R とする．このとき、 $\triangle PQR$ の面積を求めよ．

12 $\sqrt{2}$ は $x^2 = 2$ を満たす正の実数 x を表したものである．このことを用いて、次の各問に答えよ．

- (1) $\sqrt{2}$ は $1.4\dots$ と無限に続く小数で表される．そこで、 $\sqrt{2}$ の小数第 2 位の値が 1 であることを確かめよ．
- (2) n を自然数とすると、 n^2 が偶数ならば、 n は偶数であることを示せ．
- (3) (2) を利用して、 $\sqrt{2}$ は有理数でないことを示せ．ただし、有理数は最大公約数が 1 である 2 つの整数 a, b ($b \neq 0$) を用いて $\frac{a}{b}$ と表すことができる実数である．

13 関係式

$$a_1 = \beta, \quad a_{n+1} = 2a_n(1 - a_n) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定められる数列 $\{a_n\}$ について、次の各問に答えよ。ただし、 $\beta < \frac{1}{2}$ とする。

(1) $n \geq 1$ に対して、不等式 $a_n < \frac{1}{2}$ が成り立つことを示せ。

(2) $n \geq 1$ に対して、 $b_n = \log_2 \left(\frac{1}{2} - a_n \right)$ とおく。このとき、関係式

$$b_{n+1} = 2b_n + 1$$

が成り立つことを示せ。

(3) a_n を n と β を用いて表せ。

14 $\triangle ABC$ に対し、点 P は辺 AB の中点、点 Q は辺 BC 上の B, C と異なる点、点 R は直線 AQ と直線 CP との交点とする。このとき、次の各問に答えよ。

(1) $a = \frac{CR}{RP}$, $b = \frac{CQ}{QB}$ とおくとき、 a と b の関係式を求めよ。

(2) $\triangle ABC$ の外接円 O と直線 CP との点 C 以外の交点を X とする。 $AP = CR$, $CQ = QB$ であるとき、 $CR : RP : PX$ を求めよ。

正解

1 (1) $\triangle OP_1P_2$ に正弦定理を適用すると

$$\frac{OP_1}{\sin\left(\frac{3}{4}\pi - \theta\right)} = \frac{OP_2}{\sin\theta} \quad \text{ゆえに} \quad OP_2 = \frac{\sin\theta}{\sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)} = \frac{\sqrt{2}\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta}$$

(2) $\triangle OP_nP_{n+1}$ に正弦定理を適用すると ($n = 1, 2, \dots, 8$)

$$\frac{OP_n}{\sin\left(\frac{3}{4}\pi - \theta\right)} = \frac{OP_{n+1}}{\sin\theta} \quad \text{ゆえに} \quad OP_{n+1} = \frac{OP_n \sin\theta}{\sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)} = \frac{\sqrt{2}OP_n \sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta}$$

数列 $\{OP_n\}$ は初項 1, 公比 $\frac{\sqrt{2}\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta}$ の等比数列であるから

$$OP_9 = 16 \left(\frac{\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta} \right)^8$$

(3) $OP_9 = \frac{81}{16}$ のとき, (2) の結果から

$$16 \left(\frac{\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta} \right)^8 = \frac{81}{16} \quad \text{ゆえに} \quad \left(\frac{\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta} \right)^8 = \left(\frac{\sqrt{3}}{2} \right)^8$$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき, $\frac{\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta} > 0$ であるから

$$\frac{\sin\theta}{\sin\theta + \cos\theta} = \frac{\sqrt{3}}{2} \quad \text{ゆえに} \quad (2 - \sqrt{3})\sin\theta = \sqrt{3}\cos\theta$$

$$\text{よって} \quad \tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta} = \frac{\sqrt{3}}{2 - \sqrt{3}} = 2\sqrt{3} + 3$$

2 求める接線は、 y 軸に平行ではないので、 $l: y = ax + b$ とおく。

l と原点の距離は 2 であるから

$$\frac{|b|}{\sqrt{a^2 + 1}} = 2 \quad \text{ゆえに} \quad b^2 = 4(a^2 + 1) \quad \dots \textcircled{1}$$

l と $(4, 0)$ の距離は 1 であるから

$$\frac{|4a + b|}{\sqrt{a^2 + 1}} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad (4a + b)^2 = a^2 + 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ② から

$$b^2 = 4(4a + b)^2 \quad \text{ゆえに} \quad b^2 = (8a + 2b)^2$$

(i) $b = 8a + 2b$ すなわち $b = -8a$ のとき

これを ① に代入すると

$$(-8a)^2 = 4(a^2 + 1) \quad \text{ゆえに} \quad 15a^2 = 1$$

$$\text{すなわち} \quad y = \pm \frac{1}{\sqrt{15}}(x - 8)$$

(ii) $b = -(8a + 2b)$ すなわち $b = -\frac{8}{3}a$ のとき

これを ① に代入すると

$$\left(-\frac{8}{3}a\right)^2 = 4(a^2 + 1) \quad \text{ゆえに} \quad 7a^2 = 9$$

$$\text{すなわち} \quad y = \pm \frac{3}{\sqrt{7}}\left(x - \frac{8}{3}\right)$$

$$\text{よって} \quad y = \pm \frac{1}{\sqrt{15}}(x - 8), \quad y = \pm \frac{3}{\sqrt{7}}\left(x - \frac{8}{3}\right)$$

3 (1) $2 + \sin x > 0$ であるから

$$\begin{aligned} S_n &= \int_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} (2 + \sin x) dx = \left[2x - \cos x \right]_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} \\ &= 2 \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - \cos \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi + 1 = 2 \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - \frac{(-1)^n}{2} + 1 \end{aligned}$$

(2) 求める回転体の体積 V_n は

$$\begin{aligned} \frac{V_n}{\pi} &= \int_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} (2 + \sin x)^2 dx = \int_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} (4 + 4 \sin x + \sin^2 x) dx \\ &= \int_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} \left(4 + 4 \sin x + \frac{1 - \cos 2x}{2} \right) dx \\ &= \left[\frac{9}{2}x - 4 \cos x - \frac{1}{4} \sin 2x \right]_0^{(n+\frac{1}{3})\pi} \\ &= \frac{9}{2} \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - 4 \cos \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi + 4 - \frac{1}{4} \sin 2 \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi \\ &= \frac{9}{2} \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - 2(-1)^n + 4 - \frac{\sqrt{3}}{8} \end{aligned}$$

$$\text{よって } V_n = \pi \left\{ \frac{9}{2} \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - 2(-1)^n + 4 - \frac{\sqrt{3}}{8} \right\}$$

(3) (1), (2) の結果から

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{V_n}{S_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\pi \left\{ \frac{9}{2} \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - 2(-1)^n + 4 - \frac{\sqrt{3}}{8} \right\}}{2 \left(n + \frac{1}{3} \right) \pi - \frac{(-1)^n}{2} + 1} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\pi \left\{ \frac{9}{2} \left(1 + \frac{1}{3n} \right) \pi - \frac{2(-1)^n}{n} + \frac{4}{n} - \frac{\sqrt{3}}{8n} \right\}}{2 \left(1 + \frac{1}{3n} \right) \pi - \frac{(-1)^n}{2n} + \frac{1}{n}} = \frac{9}{4} \pi \end{aligned}$$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad f(x) = \int_0^1 e^{|t-x|} dt$$

(i) $x \leq 0$ のとき

$$f(x) = \int_0^1 e^{t-x} dt = \left[e^{t-x} \right]_0^1 = e^{1-x} - e^{-x}$$

(ii) $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$\begin{aligned} f(x) &= \int_0^x e^{-t+x} dt + \int_x^1 e^{t-x} dx = \left[-e^{-t+x} \right]_0^x + \left[e^{t-x} \right]_x^1 \\ &= e^x + e^{1-x} - 2 \end{aligned}$$

(iii) $1 \leq x$ のとき

$$f(x) = \int_0^1 e^{-t+x} dt = \left[-e^{-t+x} \right]_0^1 = e^x - e^{x-1}$$

$$\text{よって} \quad f(x) = \begin{cases} e^{1-x} - e^{-x} & (x \leq 0) \\ e^x + e^{1-x} - 2 & (0 \leq x \leq 1) \\ e^x - e^{x-1} & (1 \leq x) \end{cases}$$

(2) $0 < x < 1$ のとき $f'(x) = e^x - e^{1-x} = e^{1-x}(e^{2x-1} - 1)$

したがって, $f(x)$ の増減表は次のようになる.

x	0	...	$\frac{1}{2}$...	1
$f'(x)$		-	0	+	
$f(x)$		\searrow	極小	\nearrow	

よって $x = \frac{1}{2}$ のとき最小値 $2(e^{\frac{1}{2}} - 1)$

$$\begin{aligned}
 \boxed{5} \quad (1) \quad \int_{\alpha}^{\beta} (\beta - x)(x - \alpha) dx &= \int_{\alpha}^{\beta} \{(\beta - \alpha) - (x - \alpha)\}(x - \alpha) dx \\
 &= \int_{\alpha}^{\beta} \{(\beta - \alpha)(x - \alpha) - (x - \alpha)^2\} dx \\
 &= \left[\frac{1}{2}(\beta - \alpha)(x - \alpha)^2 - \frac{1}{3}(x - \alpha)^3 \right]_{\alpha}^{\beta} \\
 &= \frac{1}{6}(\beta - \alpha)^3
 \end{aligned}$$

(2) $f(a) = \frac{1}{3}a^3 - (a - 1)$ とおくと $f'(a) = (a + 1)(a - 1)$
 $-2 \leq a \leq 2$ における $f(a)$ の増減表は次のようになる .

a	-2	...	-1	...	1	...	2
$f'(a)$		+	0	-	0	+	
$f(a)$	$\frac{1}{3}$	\nearrow	$\frac{5}{3}$	\searrow	$\frac{1}{3}$	\nearrow	$\frac{5}{3}$

(1) の結果を利用すると

$$\begin{aligned}
 S(a) &= - \int_{a-1}^{\frac{1}{3}a^3} (3x - a^3)(x - a + 1) dx \\
 &= 3 \int_{a-1}^{\frac{1}{3}a^3} \left(\frac{1}{3}a^3 - x \right) \{x - (a - 1)\} dx \\
 &= \frac{1}{2} \{f(a)\}^3
 \end{aligned}$$

よって, $a = -2, 1$ のとき $S(a)$ の最小値は $\frac{1}{54}$

- 6 (1) $C: y = 2x^2 - 4x + 1$ と $l: y = x + 1$ から, y を消去すると

$$2x^2 - 4x + 1 = x + 1 \quad \text{ゆえに} \quad x(2x - 5) = 0$$

したがって $P(0, 1), Q\left(\frac{5}{2}, \frac{7}{2}\right)$

$f(x) = 2x^2 - 4x + 1$ とおく.

これを微分すると $f'(x) = 4x - 4$

$f'(x) = 1$ とすると $4x - 4 = 1$

ゆえに $x = \frac{5}{4}, f\left(\frac{5}{4}\right) = -\frac{7}{8}$

m は, $R\left(\frac{5}{4}, -\frac{7}{8}\right)$ を通り, 傾き 1 の直線であるから

$$y - \left(-\frac{7}{8}\right) = x - \frac{5}{4} \quad \text{すなわち} \quad y = x - \frac{17}{8}$$

P と m の距離を d とすると $d = \frac{\left| -1 - \frac{17}{8} \right|}{\sqrt{1^2 + 1^2}} = \frac{25\sqrt{2}}{16}$

$$(2) PQ = \sqrt{\left(\frac{7}{2} - 1\right)^2 + \left(\frac{5}{2} - 0\right)^2} = \frac{5}{2}\sqrt{2}$$

よって $\triangle PQR = \frac{1}{2}PQ \cdot d = \frac{1}{2} \times \frac{5}{2}\sqrt{2} \times \frac{25\sqrt{2}}{16} = \frac{125}{32}$

- (3) $x + y = k$ とおくと $y = -x + k$

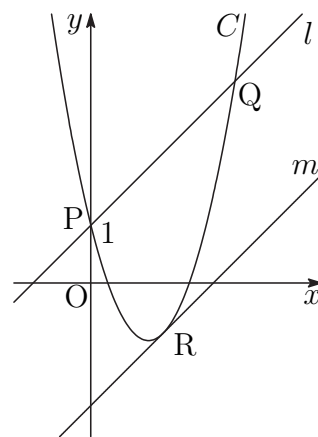
この直線が C に接するとき, k は最小になるから, $f'(x) = -1$ より

$$4x - 4 = -1 \quad \text{ゆえに} \quad x = \frac{3}{4}, \quad f\left(\frac{3}{4}\right) = -\frac{7}{8}$$

よって, $\left(\frac{3}{4}, -\frac{7}{8}\right)$ で, 最小値

$$k = \frac{3}{4} + \left(-\frac{7}{8}\right) = -\frac{1}{8}$$

をとる.

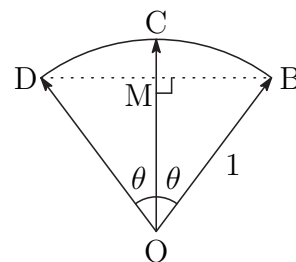


- 7 (1) B, D の中点を M とすると, M は OC 上にあり,

$$\text{したがって} \quad \frac{\overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OD}}{2} = \overrightarrow{OM}$$

$$\text{ゆえに} \quad \frac{\vec{b} + \overrightarrow{OD}}{2} = (\cos \theta) \vec{c}$$

$$\text{よって} \quad \overrightarrow{OD} = 2(\cos \theta) \vec{c} - \vec{b}$$



- (2) (1) と同様に, A, C の中点を N とすると

$$\frac{\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OC}}{2} = \overrightarrow{ON}, \quad \overrightarrow{ON} = (\cos \theta) \vec{b}$$

$$\text{したがって} \quad \overrightarrow{OA} = 2(\cos \theta) \vec{b} - \vec{c}$$

AC と BD の交点 P は, 実数 s, t を用いて

$$\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + (1-s)\overrightarrow{OC} = (1-t)\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OD}$$

$$\text{ゆえに} \quad \overrightarrow{OP} = s\{2(\cos \theta)\vec{b} - \vec{c}\} + (1-s)\vec{c} = (1-t)\vec{b} + t\{2(\cos \theta)\vec{c} - \vec{b}\}$$

$$\text{整理すると} \quad \overrightarrow{OP} = 2s(\cos \theta)\vec{b} + (1-2s)\vec{c} = (1-2t)\vec{b} + 2t(\cos \theta)\vec{c}$$

\vec{b}, \vec{c} は 1 次独立であるから

$$2s \cos \theta = 1 - 2t, \quad 1 - 2s = 2t \cos \theta$$

$$\text{上の 2 式から} \quad 2s = 2t = \frac{1}{1 + \cos \theta}$$

$$\text{よって} \quad \overrightarrow{OP} = \left(\frac{\cos \theta}{1 + \cos \theta} \right) \vec{b} + \left(\frac{\cos \theta}{1 + \cos \theta} \right) \vec{c}$$

8 (1) $w - (1 + i) = \{z - (1 + i)\}(\cos \alpha + i \sin \alpha)$ であるから

$$w - (1 + i)(1 - \cos \alpha - i \sin \alpha) = z(\cos \alpha + i \sin \alpha) \quad \cdots (*)$$

ここで, $a + bi = (1 + i)(1 - \cos \alpha - i \sin \alpha)$ とおくと

$$a + bi = 1 - \cos \alpha + \sin \alpha + (1 - \cos \alpha - \sin \alpha)i$$

ゆえに $a = 1 - \cos \alpha + \sin \alpha$, $b = 1 - \cos \alpha - \sin \alpha$

したがって, (*) および $|z| = 1$ から

$$|w - (a + bi)| = |z| |\cos \alpha + i \sin \alpha| = 1$$

よって, 点 $Q(w)$ は $a + bi$ を中心とし, 半径 1 の円周上を動く.

(2) $b = 1$ より $1 = 1 - \cos \alpha - \sin \alpha$ すなわち $\cos \alpha = -\sin \alpha$

ゆえに $\sin \alpha = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}$, $\cos \alpha = \mp \frac{1}{\sqrt{2}}$, $a = 1 \pm \sqrt{2}$ (複号同順)

よって $a = 1 \pm \sqrt{2}$

- 9 (1) $X = 0$ となるのは, A が 3 または 6 のときで, このとき, $Y = 0$ となるのは, B も 3 または 6 のときである. よって, 求める確率は

$$\left(\frac{1}{12} + \frac{1}{6}\right)^2 = \frac{1}{16}$$

- (2) $X + Y = 3$ となるのは, 次の場合である.

- (i) $X = 1, Y = 2$ のとき,

A が 1 または 4, B も 1 または 4 で, その確率は

$$P(X = 1, Y = 2) = \left(\frac{1}{12} + \frac{1}{6}\right)^2 = \frac{1}{16}$$

- (ii) $X = 2, Y = 1$ のとき,

A が 2 または 5, B も 2 または 5 で, その確率は

$$P(X = 2, Y = 1) = \left(\frac{1}{6} + \frac{1}{3}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

- (i), (ii) は, 互いに排反であるから, 求める確率は

$$P(X + Y = 3) = \frac{1}{16} + \frac{1}{4} = \frac{5}{16}$$

- (3) (2) の結果から, 求める確率は

$$\frac{P(X = 1, Y = 2)}{P(X + Y = 3)} = \frac{1}{16} \div \frac{5}{16} = \frac{1}{5}$$

10 $(\sin \alpha - \cos \beta)^2 + (\cos \alpha - \sin \beta)^2 = 2 - 2(\sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta)$
 $= 2\{1 - \sin(\alpha + \beta)\} \quad \dots (*)$

$\sin \alpha = \cos \beta, \cos \alpha = \sin \beta$ のとき, (*) より, $0^\circ \leq \alpha, \beta < 360^\circ$ より

$$\sin(\alpha + \beta) = 1 \quad \text{すなわち} \quad \alpha + \beta = 90^\circ, 450^\circ$$

逆に, $\alpha + \beta = 90^\circ, 450^\circ$ のとき, (*) より

$$\sin \alpha = \cos \beta, \cos \alpha = \sin \beta$$

- 11 (1) $C: y = 2x^2 - 4x + 1$ と $l: y = x + 1$ から, y を消去すると

$$2x^2 - 4x + 1 = x + 1 \quad \text{ゆえに} \quad x(2x - 5) = 0$$

したがって $P(0, 1), Q\left(\frac{5}{2}, \frac{7}{2}\right)$

求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{5}{2}} \{(x+1) - (2x^2 - 4x + 1)\} dx \\ &= -2 \int_0^{\frac{5}{2}} x \left(x - \frac{5}{2}\right) dx = \frac{2}{6} \left(\frac{5}{2}\right)^3 = \frac{125}{24} \end{aligned}$$

- (2) $f(x) = 2x^2 - 4x + 1$ とおく.

これを微分すると $f'(x) = 4x - 4$

$f'(x) = 1$ とすると $4x - 4 = 1$

ゆえに $x = \frac{5}{4}, f\left(\frac{5}{4}\right) = -\frac{7}{8}$

m は, $R\left(\frac{5}{4}, -\frac{7}{8}\right)$ を通り, 傾き 1 の直線であるから

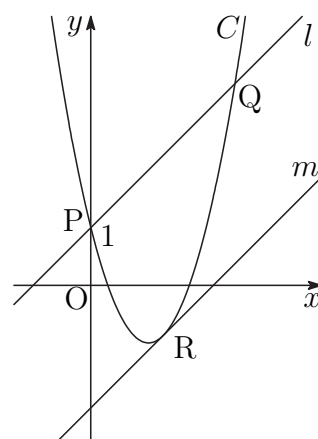
$$y - \left(-\frac{7}{8}\right) = x - \frac{5}{4}$$

すなわち $y = x - \frac{17}{8}$

P と m の距離を d とすると $d = \frac{\left| -1 - \frac{17}{8} \right|}{\sqrt{1^2 + 1^2}} = \frac{25\sqrt{2}}{16}$

$$(3) PQ = \sqrt{\left(\frac{7}{2} - 1\right)^2 + \left(\frac{5}{2} - 0\right)^2} = \frac{5}{2}\sqrt{2}$$

よって $\triangle PQR = \frac{1}{2}PQ \cdot d = \frac{1}{2} \times \frac{5}{2}\sqrt{2} \times \frac{25\sqrt{2}}{16} = \frac{125}{32}$



12 (1) $1.41^2 = 1.9881$, $1.42^2 = 2.0164$ であるから

$$1.41^2 < 2 < 1.42^2 \quad \text{ゆえに} \quad 1.41 < \sqrt{2} < 1.42$$

よって、 $\sqrt{2}$ の小数第 2 位の値は 1 である。

(2) 「 n^2 が偶数ならば、 n は偶数である。」

この命題の対偶は

「 n が奇数ならば、 n^2 は奇数である。」 … (*)

奇数 n は、ある整数 m を用いて $n = 2m + 1$ と表され

$$\begin{aligned} n^2 &= (2m + 1)^2 = 4m^2 + 4m + 1 \\ &= 2(2m^2 + 2m) + 1 \end{aligned}$$

となる。 $2m^2 + 2m$ は整数であるから、 n^2 は奇数である。

よって、命題 (*) は真であり、元の命題も真である。

(3) 「 $\sqrt{2}$ は有理数」であると仮定すると、

$\sqrt{2}$ は整数 a, b を用いて (a, b は互いに素)

$$\sqrt{2} = \frac{a}{b}$$

と表すことができる。ゆえに $\sqrt{2}b = a$ これを平方すると

$$2b^2 = a^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

よって、 a^2 は偶数である。(2) の結果から、 a は偶数である。

偶数 a は、整数 c を用いて、 $a = 2c$ と表されるから、 $\textcircled{1}$ に代入して

$$2b^2 = (2c)^2 \quad \text{ゆえに} \quad b^2 = 2c^2$$

よって、 b^2 は偶数となり、 b も偶数である。

a と b が偶数となることは、 a と b が互いに素であることに反する。

よって、 $\sqrt{2}$ は有理数ではない。

$$\boxed{13} \quad (1) \quad a_n < \frac{1}{2} \quad \cdots (*)$$

(i) $n = 1$ のとき, $a_1 = \beta < \frac{1}{2}$ であるから, $(*)$ が成り立つ.

(ii) $n = k$ のとき, $(*)$ が成り立つと仮定すると, 漸化式により

$$\begin{aligned} a_{k+1} &= 2a_k(1 - a_k) \\ &= -2 \left(a_k - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{1}{2} < \frac{1}{2} \end{aligned}$$

よって, $n = k + 1$ のときも, $(*)$ が成り立つ.

(i), (ii) から, $(*)$ が成り立つ.

$$(2) \quad \text{与えられた漸化式から} \quad \frac{1}{2} - a_{n+1} = 2 \left(\frac{1}{2} - a_n \right)^2$$

(1) の結果から, $\frac{1}{2} - a_n > 0$ であるから

$$\log_2 \left(\frac{1}{2} - a_{n+1} \right) = 2 \log_2 \left(\frac{1}{2} - a_n \right) + 1$$

$$b_n = \log_2 \left(\frac{1}{2} - a_n \right) \text{ であるから} \quad b_{n+1} = 2b_n + 1$$

$$(3) \quad (2) \text{ の結果から} \quad b_{n+1} + 1 = 2(b_n + 1)$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad b_n + 1 &= 2^{n-1}(b_1 + 1) = 2^{n-1} \left\{ \log_2 \left(\frac{1}{2} - \beta \right) + 1 \right\} \\ &= \log_2(1 - 2\beta)^{2^{n-1}} \quad \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$$\text{また} \quad b_n + 1 = \log_2 \left(\frac{1}{2} - a_n \right) + 1 = \log_2(1 - 2a_n) \quad \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ から} \quad 1 - 2a_n = (1 - 2\beta)^{2^{n-1}}$$

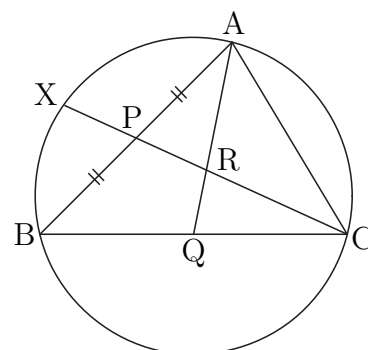
$$\text{よって} \quad a_n = \frac{1}{2} \left\{ 1 - (1 - 2\beta)^{2^{n-1}} \right\}$$

- 14 (1) $\triangle BCP$ と直線 AQ について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{BQ}{QC} \cdot \frac{CR}{RP} \cdot \frac{PA}{AB} = 1$$

ゆえに $\frac{1}{b} \cdot a \cdot \frac{1}{2} = 1$

よって $a = 2b$



- (2) $CQ = QB$ より, R は $\triangle ABC$ の重心であるから

$$CR = 2k, \quad RP = k \quad (k \text{ は定数})$$

とおくと, $AP = CR$ より $AP = PB = 2k$

方べきの定理により

$$AP \cdot PB = CP \cdot PX \quad \text{ゆえに} \quad 2k \cdot 2k = 3k \cdot PX$$

したがって $PX = \frac{4}{3}k$

よって $CR : RP : PX = 2k : k : \frac{4}{3}k = 6 : 3 : 4$